

東大阪商工月報

2018
11・12
No.799



2018-2020年度 行動方針

『行動する
商工会議所』

未来を見据えて
～変革への挑戦・志の共有・知力を磨く～

■平成30年度 優良商工従業員表彰

〈6頁〉

■特集 商店街活性化とまちづくり

〈10頁〉



東大阪商工会議所
<http://www.hocci.or.jp>

モンゴルの経済事情を学ぶ

33回目となる海外産業視察(本所・東大阪市工業協会共催、視察団長・柳山稔東大阪市工業協会会長 団員19名)は、豊かな天然資源を背景に、近年、経済発展が目覚ましい「モンゴル」の国内事情を見聞した。

本視察団は、モンゴル国商工会議所や賛光精機(日系企業)・GOBIカシミヤ(現地企業)を視察し、モンゴルの経済事情等について見聞した。

【モンゴル国商工会議所】

同商工会議所のオウンテクシ事務局長、対外関係・貿易投資担当ホソ



バヤル氏より、モンゴル経済の経済状況について説明を受けた。2017年の経済成長率は、4.2%。同国は地理的にもロシア・中国との関係が緊密であるが、日本と自由貿易協定である経済連携協定(EPA)を結んだこともあり、日本との取引は拡大傾向にある。同商工会議所でもこのような背景を受け、「モンゴル国商工会議所 モンゴル日本ビジネス協議会」を設立、モンゴルと日本の企業のビジネスチャンスの橋渡し役を行っている。

【賛光精機 訪問】

同社は、埼玉県本庄市に本社を置き、主にアルミ部品の精密加工等を行っている賛光精機(株)(資本金…8,000万円、従業員数130名)が、独資で2011年に設立。工場内に



はマシニングセンターが10数台置かれ、精密部品の加工を行っていた。従業員数は64名、交代制で24時間稼働している。

【GOBIカシミヤ 訪問】

同社は、モンゴル最大のカシミヤ製品製造会社であり、設立は198

1年、原毛の買付から製品までの全工程を一貫で管理・生産する世界的にも数少ない工場として知られる。元々、日本の経済協力(ODA)の一環で、工場はモンゴル側、製造ライン一式は日本側が無償協力して、国営企業として操業を開始。1990年の市場開放に伴い、現在は民営企業として活動している。ウランバートル市内は勿論、海外にも直営店舗を持ち、日本でも羽田空港内に直販店がある。

